

K S K Q

エヌピーオー

NPOちゅうぶ 通信

つうしん

ねん がつごう
2026年7月号



by Ayumi

at Shimane

おにごっこ チラシ
多様な視点を生かした活動を JIL全国セミナー
救急搬送が死への片道切符になる社会
JIL全国セミナー 教育インクルーシブプロジェクト登壇
ちゅうぶ スタッフ募集チラシ
USJさん！それって差別じゃないですか！
大阪府に届けよう わたしたちの声 総決起
イタリアのインクルーシブはほんま？
松島優希 ゲームセンター企画

障害者運動なくして人権なし
矢田 東 小 フェスに参加しました！
ナビゲーション ～大阪防災アプリ～
新人職員インタビュー二宮さん番外編
ニフレルに行ったよ！！
木戸道雄の部屋 ～彦八まつり～
マノスタ ～ブルーカーペット～
協力会費 カンパ
編集後記

なんば

《謎解き×冒険×バリアフリー》ウォークラリー

おにごっこ



2026

バリア・ほった〜と秘密のトイレ



2026

10/10 (土)

10:30-16:30

カーニバルモールに集合!

(なんばパークス1階)

おにごっこ
ですが...
走りません!



どなたさまも
ご参加可能!

バリアフリーな なんばのまちが危ない!
魔法界の闇の帝王はバリアフリーが嫌いだ。
みんなが大好きななんばを守るため
バリア・ほった〜が立ち上がった。
でも相手は強力だ。なんばに隠されたポイントを探し、ミッションをクリアせよ!
そして、最後の決戦の場所

リバープレイス地下に向かうのだ!!

参加費:500円(介護者無料) 子ども(小中高)200円

わたしも
待ってるで!
たこ焼き
食べたい〜



主催: なんばおにごっこ実行委員会 連絡先: Tel: 06-4703-3740 Fax: 06-6628-0271 (NPO法人ちゅうぶ)

共催: 千日前商店街振興組合 / 障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議 (障大連)

後援: 道頓堀商店会 / 心斎橋筋商店街振興組合 / 戎橋筋商店街振興組合 / 宗右衛門町商店街振興組合 / 千日前道具屋筋商店街振興組合 / 道頓堀商店街振興組合 / 大阪市中央区商店会連合組合 / 難波センター街商店街振興組合

※※※ バリア・ほった〜となんばを守ろう！ ※※※

なんばには魔界への入口がいくつもある。

地下街連絡エレベーターの奥に隠れたボタンがあるらしい。

「バリア・ほった〜」は人間との共生とバリアフリーな世界、

インクルーシブな世界を大切に。特にごちゃまぜな大阪なんばが大好きだ。

お好み焼き、たこ焼きも大好物。

一方、魔界の帝王「ホルデ・もっと」はバリアフリーと人間が大嫌いだ。

なんばのまちにはエレベーターや

バリアフリートイレもたくさんあるが、ちょっと

隠れている。マップも見ながらミッションをクリアし、

おにスタッフの待つポイントも通過しよう。

最後にバリア・ほった〜とホルデ・もっとが闘う

決戦の場リバープレイスに

集まろう！

特典2

なんば名物

たこ焼き、お好み焼き、串カツ
ラーメンやお土産を
商店街から提供して
もらっています。



〜特典1〜

なんば

バリアフリーマップ

障害者が中心になって調べた
マップ。車椅子の方も利用可能な
オススメのお店も紹介！

トイレマップも
あります！



なんばの魔界への最初の入口
カーニバルモール。どこだ？
と思ってる人も多いじゃろ。実は簡単。
なんば広場から高島屋1階に入る。
南海電車改札階の3階に上がるエリ
ベーター・エスカレーター・階段が
あるが、その左横をまっすぐ進むだけ。
一度、建物を出て、横断歩道を渡った
ところじゃ。勇気ある参加を待って
おるぞ！

ダンボール・ドア校長より

※行き方の動画、写真は
ちゅうぶHPにアップ
します。



〜ゴール〜

決戦の地
リバープレイス
(なんば Hatch 地下)



ビル上の巨大な
蜂を探せ！



千日前商店街

道頓堀から千日前通に続く
活気あるアーケード街
お好み焼きやラーメンなど
の老舗グルメが充実！



法善寺横丁
静かなななな情緒を
漂わせている
水掛不動尊が有名



オタロード

日本橋のメインストリート
漫画、アニメ・ゲーム
フィギュアの聖地。

〜スタート〜

なんばパークス
(カーニバルモール)



参加方法

なんばおにごっこ特設サイトからお申し込みください。
できるだけチームでご参加ください。(4人程度推奨。1名からでも参加可能)
NPOちゅうぶに電話、メールも可能です。

企画内容

チームに別れてウォークラリーに出発します。
なんばパークスや日本橋オタロードなど新旧さまざまな表情の街を
めぐります。千日前商店街にあるミッションポイントをクリアしたあとは
なんば Hatch 地下で行われるラストイベントに集まろう！

お問合せ

NPO法人ちゅうぶ

電話：06-4703-3740 FAX：06-6628-0271
メール：chubu@npochubu.com



NPOちゅうぶ法人
HP：https://npochubu.com/
なんばおにごっこ特設サイト
開設準備中！

多様な視点を活かした活動を！！ JIL全国セミナー

6月17日～19日に仙台でJIL全国セミナー・総会が開催され、ナビから、東が現地参加、小坪、山下、堀がZOOMで参加しました。印象深かった点を中心に報告します。(文責:堀)



総会では、「あり方検討会」を立ち上げこれからの運動の方向や組織のあり方について、一緒に未来を描いていく一年としたい、「対話」や「分かりやすく伝えること」を大切にして活動を広げたいという趣旨で活動方針が提案され可決されました。

セミナーでは、東がインクルーシブ教育で登壇、模擬授業を行いました。

自立生活センターいろはの八木郷太さんのアメリカ研修報告はとても臨場感がある面白い報告でした。長期海外滞在中の重度訪問介護制度の利用を勝ち取ったことはとても大きかったと思



います。研修を実現するまでの道のりを振り返り、「みんなの挑戦だった」と語られたことが印象的でした。

研修といっても、手取り足取り教えてくれることは一切なく、「お前は何か

したいんだ」とか、「お前は何か欲しいのか」

「あなたどう考えているか？」とよく聞かれた、干渉はしないけど、求めれば与えてくれる文化で、日本に帰ってきてからも

自分に問いかけながら活動しているという話がシンプルだけどとても大事ななと思いました。

学びは、「危機感」と「シンプルな問い」

・SPEAK UP! (声を上げろ!)

障害者の幸せは約束されていない。権利を奪われるな!

・WHAT DO YOU WANT? (なにが欲しい?)

自分の可能性を見くびらない。「やりたい」を諦めるな!

・WHAT DO YOU THINK? (君の考えは?)

自分の意見を持ち、相手をリスペクトし、仲間をつくれ!

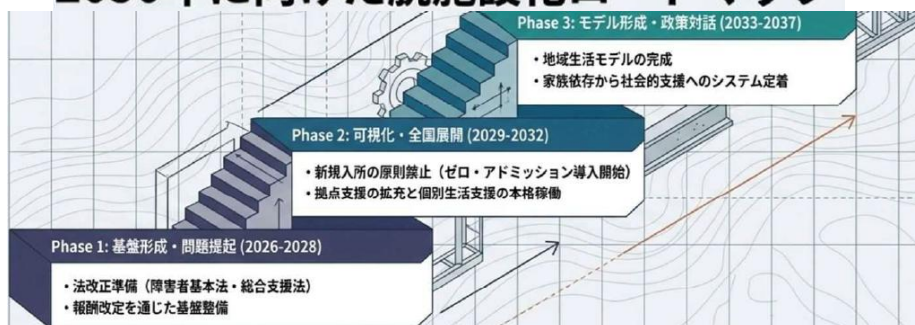
脱施設ロードマップ初公開

～地域で生きるロードマップへのコマでは、検討中のロードマップの説明をいただくとともに、現場での事例や声を共有する場としていただいて、とても有意義でした。京都の

JCIL大藪さんの報告では京都市「一人暮らし体験等事業」が紹介され、行政主導で体験室を設置することの意義が語られました。ピープルファーストの中山さんからは「どんなに障害が重い仲間でも地域で暮らせる。そのことを信じてほしい。不安になっている当事者に地域で暮らせると言ってほしい」と話がありました。また、CILイルカのツイさんからはインクルーシブ教育から地域生活へつながる実践報告がありました。

救急・集中治療における生命維持治療の中止・差し控えに関するガイドラインについての話は衝撃で、障害者の臓器が狙われているという話はショッキングでした。当事者の声も掲載しています。

2050年に向けた脱施設化ロードマップ



JIL全国セミナーで、集中治療・救急・循環器・緩和医療の4学会による合同ガイドライン改訂(2026年3月)によって、治療差し控え・中止の議論が、当事者抜きで、「人生最終段階ではない者」にまで広がろうとしていることへ大きな危機感が示された。呼吸器ユーザーの山口さんの報告を共有したい。

「救急搬送が、二度と自宅へは帰れない、死への片道切符になる社会」

— 4学会合同ガイドライン改訂に重度障害当事者・人工呼吸器利用者・難病当事者の立場から反対する —

山口 和俊(ながさき自立生活センター-こころ-さくら会理事/筋ジストロフィー-表皮水疱症/人工呼吸器利用/24時間介護利用/単身独居)

【導入】

救急搬送が、二度と自宅へは帰れない「死への片道切符」になる社会。これが、今回のガイドライン改訂が私たちに突きつけている現実です。今すぐ、声を上げなければならない。

皆さん、こんにちは。山口和俊と申します。24時間の介助と人工呼吸器を命綱として生きる当事者として、この場でお話しさせていただきます。

私がこの世に生を受けたとき、全身の皮膚は水ぶくれやびらんに関わり、呼吸はとても弱いものでした。のちに下された診断は「プレクチン欠損型表皮水疱症」。およそ1,000万人に一人という極めて稀な進行性の難病でした。成長とともに全身の筋肉が衰えていく。幼い頃から、「いつか身体の自由が失われていく」という残酷な未来を突きつけられて生きてきました。

12年前、呼吸状態の悪化により気管切開を選択しました。生きるために手術台に上がりましたが、その代償として私は「自分の声」を失いました。しかし、声を失ったからといって、私の意思まで消えたわけではありません。口の動き、まばたき、表情を駆使して言葉を紡ぎながら、重度訪問介護という制度を使い、地域の中で「一人の人間」として、驚くほど楽観的に、豊かに生きています。

【怒り 期限が来たら、命を切り捨てる】

このガイドラインは、私の命を期限付きにします。

突然の肺炎で搬送される。ICUで意識が低下した状態が続く。2週間経っても「劇的な改善」は見られない。そのとき医療チームは言います「TLTの期限に達した」と。今回の改訂で持ち込まれた概念が、TLT期限付き治療試行です。あらかじめ期限を設けて治療を試み、改善がなければ中止する。それだけのことです。

私の体は、回復に時間がかかります。もともと複雑な病気を抱えているから、一般的な回復曲線には当てはまらない。「改善なし」に見えても、実は徐々に回復していることもある。「期限付き」の枠組みは、そういう命を機械的に切り捨てます。

「呼吸器をつけないこと(差し控え)」と「呼吸器を外すこと(中止)」は、私にとっては等しく命を奪う「悪」です。「つけないこと」は、医師が直接手を下さずに済むため、罪を問われない免罪符になっています。「外すこと」は、一度繋いだ命の灯を医師が自ら消す、実質的な殺人と変わりません。

「無益な治療」という言葉は差別です。私が人工呼吸器を使いながら地域生活を送ることを「無益」と呼ぶことは、「生存維持治療は無益だ」という意識を社会に刷り込む。その言葉を、私は断じて認めません。

【悲しみと恐怖 推定は、本人の意思ではない】

私は声を失っています。コミュニケーションに時間と支援が必要です。そういう私が、もし今夜意識を失ったとしたら明日の朝、誰かが「本人もきっとそう望んでいるはずだ」と言う。その言葉が、私の呼吸器を止める根拠になる。これが、改訂ガイドラインが「患者の意思を尊重するため」と説明しながら許容していることです。

矛盾していると思いませんか。本人の意思が確認できないとき、他の誰かが推定して決めることが、なぜ「本人の意思の尊重」になるのでしょうか。それは「本人の意思」ではなく、「家族の推定」です。

「意思の読み取りが難しいから、治療を止めてもよい」という議論は、私の存在そのものの否定です。読み取れないのは医療側の想像力の欠如であり、それを理由に命の選別を行うことは、明白な差別です。私の肉声は失われましたが、それゆえに一文字ずつ紡ぎ出す私の言葉には、命の重みが宿っています。この沈黙の言葉を、軽んじないでくださいと言いたいです。しかも現実には、家族は介護疲弊の中にいます。経済的な負担を抱えている。そうした状況下での「推定」は、知らず知らずのうちに「本人ではなく家族の都合」になりかねません。もし私が「死にたい」と口にしたなら、どうかその言葉の奥にある「絶望の正体」を探し出してください。「家族に迷惑をかけたくない」「社会に居場所がない」といった社会的な痛みを、医療の場での「死」によって解決しようとししないでください。

本当に「本人の意思を尊重する」のであれば、順番が逆です。支援者がいる、時間がある、機器がある その条件が整って初めて、「本人の意思の確認」は成立します。環境が整っていないから推定で決める。それは、私の死を他人に委ねることと同じです。

【問いかけと連帯 私たちの命を、私たちなしに決めるな】

呼吸器をつけて生きる当事者が一人もいない場で、私たちの命の終わらせ方が決められていた。

先日、ある医療系の学会に参加したときのことです。「本人希望による人工呼吸器の取り外し」が議論されるその場に、呼吸器をつけて生きる当事者の姿は一人もありませんでした。健康な身体を持つ人々が、私たちの命を「どう終わらせるか」を事務的に話し合っている。その光景は、まるで「私たちは生きているだけで迷惑なのか」と刃を突きつけられているようで、殺意に近い恐怖を覚えました。

今回のガイドライン改訂も、まったく同じ構造です。4 学会が改訂を主導しましたが、そこに人工呼吸器ユーザーも難病当事者も重度障害者もいませんでした。ガイドラインには「患者へ丁寧に説明する」と書かれています。でも、作る段階には当事者がいない。完成してから「説明する」では、もう決まった後です。それは説明ではなく、通告です。皆さんは、これをおかしいと思わないでしょうか。

私は思います。これは歪んでいる、と。そして一人の人間として、猛烈な 憤りを覚えます。

障害者権利条約には「Nothing about us, without us(私たちのことを、私たち抜きで決めるな)」という根本原則があります。日本はこの条約を批准しています。私たちが求めるのは、「聞いてもらおう機会」ではありません。「一緒に作る権利」です。起草段階から当事者委員を委員会に加え、議決権を持たせる。意思疎通支援者を同席させる。皆さんにも、この問いを共に考え続けてほしいのです。

【結びに: 命を支え切る社会の責任を】

命を守る・命を支えるべき立場にある医療者の皆さんに求めたいのは、患者の「生きる」の一番の味方、伴走者であってほしいということです。患者が絶望に沈んでいるとき、共に絶望して「死の選択肢」を差し出すのではなく、粘り強く寄り添ってほしい。そしてここにいる皆さん全員にも、この社会を一緒に変えてほしいのです。重度訪問介護という「制度」と、医療者の「共に生きる」という「心」。その両輪があれば、私たちは何度でも立ち上がれます。命を終わらせる枠組みを整える前に、まずは「命を支え切る社会の責任」を果たしてください。効率や負担を理由に命が切り捨てられることのない社会を、私はここに強く、強く求めます。

「生きることを諦めない」という思いを支えてくれる人がそばにいて、私たちはもう一度、明日を信じることができます。

JIL全国セミナー インクルーシブ教育プロジェクトに登壇して

全国の仲間と学び合う3日間

6月17日から3日間にわたり開催されたJIL全国セミナーは、自立生活運動に関わるさまざまなテーマについて学び合う全国自立生活センター協議会(JIL)が開催する研修会です。インクルーシブ教育をはじめ、介助サービスや人権、脱施設など、多彩な内容があり、全国から多くの仲間が参加しました。

私はその中の「インクルーシブ教育プロジェクト」のコマで登壇しました。

同じJILインクルーシブ教育プロジェクト(JIEP)メンバーである中野まこさん(CIL十彩)、植田洋平さん(ヒューマンネットワーク熊本)とともに、それぞれが学校現場で実践している授業を紹介しました。小学校低学年向け、小学校高学年向け、教職員向けと対象の異なる模擬授業を通して、学校啓発で大切にしていることや、子どもたちへどのように伝えているのかを全国の参加者と共有しました。



子どもたちと一緒に考える授業

私は小学1年生向けの授業を担当しました。

普段授業をするときに大切にしているのは、「障害とはこういうものです」と答えを教えるのではなく、子どもたち自身が「なんでだろう?」「どうしたらいいんだろう?」と考えられる時間をつくることです。

また、障害のある人を特別な存在として紹介するのではなく、「好きなこと」「苦手なこと」「友達と遊ぶこと」など、誰にでもある日常から話を始めることで、「自分と同じなんだ」と感じてもらえるよう意識しています。小学1年生は集中できる時間も限られているため、クイズや実物を使ったり、子どもたちとのやり取りを多く取り入れたりしながら、楽しく学べる授業づくりを心掛けています。

一方、中野さんは小学4年生向けに社会モデルやバリアフリーについて考える授業を紹介し、植田さんは教職員向けに自身の経験をもとに、インクルーシブ教育の本質について伝える授業を行いました。三者三様の

授業でしたが、「障害をかわいそうなものとして伝えない」「子どもたち自身に考えてもらおう」という思いは共通しており、改めて全国の仲間と目指す方向性を共有することができました。



全国の実践から見えてきたこと

後半のグループワークでは、各地で行われている学校啓発について情報交換を行いました。

学校との関係づくりや教材の工夫、授業の進め方など、それぞれの地域で積み重ねられてきた実践を共有することができ、とても参考になりました。一方で、学校とのつながりづくりや継続的に授業へ入っていく難しさなど、全国共通の課題も見えてきました。

小学生へ伝えるポイント

- ・字は多くなりすぎない
- ・写真やイラストをたくさん使って紙芝居みたいにする
- ・クイズや手をあげて答えるのが大好きなので参加型にする
- ・「私はこう思うよ」「私だったらこうしてほしいな」と自分の思いや経験を話すようにする
- ・子どもからの質問にビビらない！(笑)

伝えるときに意識していること

- ・自己紹介はインパクトのある内容
- ・ストーリー調の話にして、想像・共感しやすくする。
- ・飽きないように笑いを入れる。滑っても泣かない！
- ・自分で何が正しいか考えてもらう。
障害を「治す」とこと「社会が変わる」こと話を聞いて、どちらに共感できる内容か
- ・専門的な話よりも体験談。専門的な話は誰でもできる。

学校バリアフリーを全国へ広げるために

分科会の最後には、インクルーシブ教育プロジェクトで取り組んでいる「学校施設バリアフリー化推進に関する要望書」についても紹介しました。

この要望書は、各地の自立生活センターが自治体へ提出し、学校施設のバリアフリー化を推進するためのものです。前回の2025年12月開催のJIL全国セミナーでも紹介しましたが、その後、DPI日本会議と協議を重ね、

文部科学省の新しい通知内容などを反映した形に内容を見直しました。今回は新しい要望書を改めて各地で活用していただけるようお願いするとともに、地域の実情に合わせて積極的に要望活動へ取り組んでいただきたいことを呼びかけました。

新メンバー募集中です！

また、現在インクルーシブ教育プロジェクトでは新しいメンバーも募集しています。学校啓発に興味のある方や、「今の日本の教育を変えていきたい」という思いを持つ方と一緒に活動の輪を広げていきたいということもお伝えしました。

インクルーシブ教育の未来に向けて

今回の登壇を通して改めて感じたのは、インクルーシブ教育は一度授業をすれば終わるものではないということです。

子どもたちが障害のある人と自然に出会い、「違いがあることは当たり前」「困っている人がいたら声をかけよう」と思える社会をつくるためには、

学校で学ぶ機会を少しずつ積み重ねていくことが大切だと感じています。これからは全国の仲間と学び合いながら、一人でも多くの子どもたちが「違いがあることは当たり前」と感じられる社会を自指し、学校啓発活動を続けていきたいと思えます。（文責：ナビ東 佳実）



正職員 ・ ヘルパー スタッフ募集中！

「200 万回の選択。」を実現するために

人は、1 日におよそ 70 回の選択と決定を繰り返していると言われています。
朝起きる時間、出掛ける場所、どんな服を着て、何を食べて、何をして誰と過ごすのか。
83 年という平均寿命では、一生でおよそ 200 万回。

でも、これは健常者だった場合の数字。障害者の場合はどうだろう？
わたしたちは、生活の中で様々なことに制限がかけられる障害者でも、
「200 万回の選択。」を実現できる社会づくりを目指しています。

“障害があっても、人の力を借りて自己選択・自己決定すること”
わたしたちの考える大きな「自立」のかたちを確かに実現していくために。

ぜひいっしょに、働いてみませんか？ お待ちしています！



(事業内容&スタッフインタビュー) (応募フォーム(正職員))



ヘルパー応募についても

お気軽にお問合せください！

★1,350 円/h～

★11,200 円/泊(23:00-翌 7:00)

※講座修了後の金額です。

〔NPO 法人ちゅうぶ〕 Tel:06-4703-3740

U-17

さべつ

USJさん！ それって、差別じゃないですか！！

でんどうくるま

はっか

おそ

じょうせん

電動車いすは発火する恐れがあるのでジョーズに乗船はダメ！？

ちゅうぶでは、2024年5月にUSJで差別対応について、複数人が差別解消申し立てを行い、大阪府広域相談員を通じて、USJに働きかけを行ってきました。その結果、いろいろ改善していただいたこともたくさんあり、2025年の5月には、改善点の現地確認も行ってきました。

かいぜん

改善してくれたこと①



ナビの東が乗ろうとすると、スケールの前に立って身長が計測できないと、乗ることができないと対応されました。
立てないのでメジャーで測ってほしいという、そういうことはできないと合理的配慮の不提供がありました。

⇒メジャーで身長を測ってくれることになりました。

かいぜん

改善してくれたこと②



ナビの小坪、堀が介助者1人と一緒にSINGを見ようとすると、障害者1人に介助者が1人必要と言われました。
障害者であることで一律にどのアトラクションもショーも介助者が1対1必要と条件付けするのはおかしいのではないかと言いました。

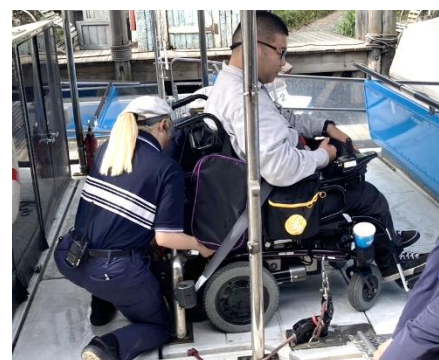
⇒SINGとかコーヒーカップとか、介助者が1対1でなくとも問題なく乗れるようになりました。



車椅子3名、
介助者2名
1対1でないけど、楽しめました。
2025年5月

かいぜん

改善してくれたこと③



電動車椅子で乗船可能かのサイズの計測や、手動くるまへの移乗ができないのか、手動モードへの切り替えを自分でやってほしいなど、ジョーズに乗るまでのやり取りに長くかかって、まったく楽しめない状況で、一方的なルールの押し付けはおかしい、合理的配慮をしてほしいと言いました。

⇒クルーが研修してくれて、小坪や東の大型電動車いすでも3分ぐらいで、スムーズに乗船できました。

USJさん頑張ってくれていたのに

突然、電動車いすでの乗船は危険という見解?? なんで?

ところが、2026年3月に大阪府を通じて、まったく信じられないUSJの見解が伝えられました。「電動車いすはバッテリーを積んでいるので発火する恐れがある。その危険を考慮して、電動車いすでのジョーズの乗船は認められなくなった。すでに、ホームページでの案内も変更済み。」という通告でした。

こちらは、「本当に危険なものであれば、一般の交通機関も乗車できないはずだが、そんなことはない。万が一にしかないことを取り立てて危険と決めつけるのは問題だ。電動車いすのバッテリーはダメで、健常者のモバイルバッテリーは問題がないのか？」などの反対意見を伝え、一旦、再検討をお願いしました。

しかし、その後、6月に「発火の危険性を否定できないので、電動車いすでのジョーズへの乗船は認められない」と、USJから検討後の到達点として、大阪府を通じて、回答がありました。電動車椅子を危険視する偏見・差別は絶対に許すことができないと思いました。

DPIは「差別である」と見解を伝え、経産省へ働きかけ

堀から、DPIの佐藤さんに相談しました。すると、DPIとして、以下の文章を国の担当に送って、対応を依頼してくれました。担当は経済産業省だそうで、国土交通省から経産省へ引き継がれています。

DPI佐藤から国交省へのお願い 2026年6月11日
電動車いすはバッテリーを使用しておりますが、一定の条件を満たしたものは航空機にも搭乗できており、別紙のように国交省からも基準が示されています。また、一般の電車、バス、船舶等において電動車いすのバッテリーを理由に乗車・乗船の拒否をされることは日本においてありません。
今回のUSJのジョーズへの乗船の拒否は、バッテリーの形式にかかわらず、一律に電動車いすを理由に乗船を拒否しており、障害者差別解消法の差別的取扱いに該当すると考えます。
USJに対して、国交省から事実の確認と改善を働きかけていただきますようお願い申し上げます。

国交省の基準（一部抜粋） 航空運搬中の気圧や温度の変化などの可能性がある場合に対応する基準が定められています
が、電動車いすは通常使用では問題ないと明記されている。

我が国における電動車椅子に係る基準概要（1）

電動車椅子で航空機を御利用される場合のルールについて

電動車椅子は、陸上において通常使用する場合にあっては、何ら危険性を有するものではありませんが、航空輸送を行う場合にあっては、大きな気圧や温度変化または継続的な振動を受けることにより以下の危険性を生じる可能性があります。

- ・輸送中の振動などにより、電源が入り動き出す可能性がある
- ・輸送中の気圧や温度の変化などにより、蓄電池内にある硫酸等の電解液が漏れ出す可能性がある
- ・輸送中の衝撃などにより、蓄電池が発火する可能性がある

このため、国際規則および国内規則では、電動車椅子を航空機で安全に輸送するためのルールが定められています。

大阪府を通じて、USJから連絡あり

7月7日USJの見解を府から聞きました。

「避難体制の承認がおりたので、3月以前の状態に戻したい。」

※電動車いすの場合、手動モードに切り替えて、クルーの操作によってジョーズに乗船することは可能。

電動は発火するという見解は変えてていないのか？その辺りは今後、確認が必要です。

大阪府に届けよう！わたしたちの声！

～大阪府交渉にむけて総決起デモ行進～

毎年、大阪府交渉総決起集会は猛暑の時期に行っていましたが、さすがに、すごく暑いので今年は学習会とデモ行進と2日間に分けて行なうことになり6月4日(木)に総決起デモ行進を行いました。当日は大阪府各地から、たくさんの仲間が中央区民センターに結集しました。



約400名の仲間が参加し会場は熱気であふれかえりました。



ピープルファースト(知的障害者団体)の仲間と一緒にシュプレヒコールの練習をしました。



障大連の横断幕を先頭に中央区民センターから大阪城公園までデモ行進をしました。

ちゅうぶの仲間もシュプレヒコールをしました！



おおさか府 われわれ
大阪府は、我々の
こえを聞け～！

あくどく じぎょうしょ
悪徳な事業所を
なくせー！



わたし め
私たち抜きに
わたしのことを
決めるな～！



わたし こえ とど
私たちの声を届けよう！！

こうしん かくだんたい おおさか府こうしょう
デモ行進のあとは、各団体から大阪府交渉
におけるアピールをしてデモ行進は終了し
ました。

おおさか府こうしょうどうじつ がんば うた
大阪府交渉当日も頑張って訴えましょう！！



イタリアのインクルーシフはほんま？

イタリア 3 か月滞在で見た教育と精神医療 & インクルーシフ教育研究者のコラボ企画

インクルーシフ教育と日本の課題

ちゅうぶで企画した学習会では、イタリアの教育や精神保健の実践、そして世界のインクルーシブ教育の流れについて学んだ。

2026年6月6日(土)13時～17時

前半は、昨年9月から12月までの約3 か月間イタリアに滞在し、学校や精神保健センター、障害者団体などを訪ねた上田哲郎さん・畠さんからの報告。

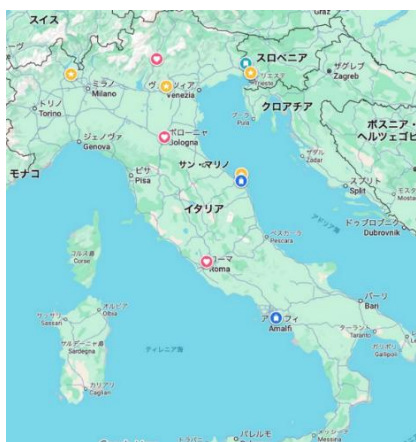
後半は東洋大学客員研究員の一本玲子さんから、世界のインクルーシブ教育の動向と日本の課題についての報告があった。

イタリアの実践を知ることは、単に「海外ではこんなことをやっています」という話ではなく、日本の教育や地域生活支援のあり方を問い直すことでもあった。特に今回は、「障害がある人を地域から切り離さない」という視点が、教育にも精神保健にも共通して流れていることがとても印象に残った。



上田さんたちがイタリアを訪ねた理由

上田さんがイタリアに関心を持った背景には、日本の教育や精神保健に対する強い問題意識があったという。日本では、障害のある子どもが地域の学校で学ぶことは、今もなお当たり前ではなく、本人や家族、学校側



の努力がかなり必要になることも多い。精神保健の分野でも、地域でどう暮らし続けるかより、入院や施設が前提になりやすい現実がある。

一方イタリアは、精神病院の解体や地域生活支援、障害のある子どもが地域の学校で学ぶ仕組みを進めてきた国として知られている。上田さんは、「本当にそんな社会が成り立っているのか、自分の目で見てみたい」と思い、イタリア行きを決めたそう。滞在中はトレント、ローマ、トリエステ、ボローニャなどをまわり、学校、精神保健センター、協同組合、障害者団体、当事者や家族など、さまざまな人たちから話を聞いた。

イタリアは理想郷ではない。でも、日本とは違った

報告の中で印象的だったのは、上田さんが「イタリアは理想郷ではない」とはっきり言っていたことだった。イタリアには養護学校・支援学校がまったくないわけではなく、実際にローマでは支援学校も見学したというし、精神科病床もゼロではない。

ボローニャでは1 か月ほど療養できる病院もあったそう。

でも、それでも日本と大きく違うのは、障害のある子どもが地域の学校にすることが特別ではなくなっていること、そして精神保健の分野でも「どう病院にとどめるか」ではなく、「どう地域に戻していくか」を前提に仕組み

がつくられていることだった。

トレントでは、教育長が「この州には養護学校はない」と話し、小中学校だけでなく高校にも知的障害のある生徒が在籍していることが自然に語られていたという。精神保健の分野でも、総合病院に少数の精神科病床を置きつつ、長期入院ではなく、短期間で退院し、その後は地域で支える仕組みが整えられていた。

「一緒に育つこと」が偏見を減らす

上田さんの話の中で、とても印象に残った言葉がある。「一緒に育つことは、無知をなくし、偏見を減らし、差別を解消する」という言葉だ。上田さん自身、養護学校から地域の小学校へ転校し、中学校、高校、大学へと進んできた経験がある。その中で、人と一緒に育つことの意味を身をもって感じてきたからこそ、この言葉には重みがあった。分けられてしまえば、出会うはずの人に出会えない。関わる中で気づくことも、ぶつかることも、助け合うことも減ってしまう。障害のある人のことを「知らないまま」大人になる人が増えれば、偏見や思い込みはなくなる。だからこそ、子どもの頃から一緒に育つことに意味があるのだと思う。

トリエステで見た「地域で生きるのが当たり前」の空気

上田さんたちは、バザリア改革で知られるトリエステも訪れている。そこでは、元精神病院の広大な敷地が公園として開かれ、精神保健センターのスタッフたちが「インクルーシブであることは当たり前」と語っていたという。制度の話だけを聞くと、日本でも「地域移行」「地域生活支援」という言葉はたくさん出てくる。でも、実際には地域で暮らすことよりも、病院や施設の中でどう支えるかが先に考えられてしまうことも少なくない。そういう日本の現状を思うと、「地域で生きるのが当たり前」という前提で仕組みがつくられていること自体が、イタリアとの大きな違いだなと感じた。

世界ではインクルーシブ教育が当たり前になりつつある

後半の一木さんの報告では、タジキスタン、モンゴル、イタリアなどの事例が紹介された。印象的だったのは、経済的に豊かとは言えない国々でも、「支援学校を増やす」のではなく、「インクルーシブ教育を進める」という方向を打ち出していることだった。

タジキスタンやモンゴルでは、障害のある子どもの就学率がまだ十分ではない現実もある。それでも国としては、障害のある子どもを地域の学校から排除しない方向に進もうとしている。日本では、いまだに「この子にはこっちの方が合っている」「この子のためには別の場が必要」と、分けることが支援として語られがちだけど、世界の流れはもうそこではないのだと感じた。



イタリアでは、教育と地域生活がつながっている

一木さんの話で大きかったのは、イタリアではインクルーシブ教育が教育だけで完結していないことだった。

障害者運動、脱施設、地域生活支援、本人の自己決定を支える仕組みが、全部つながっている。イタリアの障害者団体や家族団体は、政策づくりにも深く関わっていて、インクルージョンを「自己決定」と「他者との平等」と位置づけているという。重度障害者の脱施設を進める法律や、本人が自分の人生や生活を定めることを中

心に据えた法制度も整えられてきた。つまり、学校で一緒に学ぶことと、地域で一緒に暮らすことは、別々の話ではないということやと思う。学校だけインクルーシブでも、卒業したら施設、地域では分断、では意味がない。教育と暮らしがちゃんとつながっていることが大事なんやと改めて感じた。

インクルーシブ教育は、社会そのものを変える

一本さんの報告の中で、特に印象に残ったのは、「学校でインクルーシブ教育をすると、社会に障害者の存在を示すことになる」というイタリアの関係者の言葉だった。子どもの頃から一緒に学んでいけば、「障害のある人が地域にいるのは当たり前」になる。逆に、最初から分けられていたら、「知らない」「出合わない」「だから想像もできない」という社会になってしまう。インクルーシブ教育は、単に学校の中の配慮の話ではなく、社会の価値観を変える土台なんやと思う。

日本の課題は、やっぱり「分離ありき」であること

一本さんは、日本の課題として、「制度がどれだけ整っても、分離を前提にしていること」を挙げていた。これは本当にその通りやと思った。学校の中でも外でも、まず分ける。そのうえで交流しよう、共生しようと言う。でも、それは本当の意味でのインクルージョンなのだろうか。紹介されていた石川県の事例も、特別支援学校高等部を高校の敷地内に移し、交流を進めるというものだったけど、それは「分離を前提にした統合」であって、同じ場で共に学ぶこととはやっぱり違う。

さらに日本の学校は、暗記中心の一斉試験や、「学校の枠に適應できるか」が重視されやすい。そこから外れる子どもは、支援学級や支援学校、別室、あるいは不登校支援の場など、どんどん分けられていく。もちろん必要な支援はある。でも、「学校側が変わる」のではなく、「合わない子どもを別の場所へ」となりやすい今の流れには、やっぱり強い違和感がある。



「日本でどう実現していくか」を考えたい

今回の学習会では、イタリアの教育や精神保健の実践を通して、分けないことの意味や、地域で暮らし続けるための仕組み、そしてそれを支える価値観について学ぶことができた。イタリアをそのまま理想化するのではなく、課題も含めて見ながら、それでも「分離ではなく、共に生きる方向へ進むことはできる」と感じられたことが大きかった。

ただ、日本は遅れている、分離前提だからだめだ、で終わらせてしまうのは少し違う気もしている。日本にも、地域で共に学ぶ実践や、本人の暮らしを地域で支えようとする取り組みは確かにあるし、そこには日本の中で積み重ねられてきた大事な実践がある。まずはそうした実践をきちんと見つけて、広げていくことが必要だと思う。

その上で、海外の好事例をそのまま真似するのではなく、日本の制度や学校現場、地域の実情の中で、何をどう活かしていけるのかを考えていくことが大事なのではないだろうか。障害があるから分けるのではなく、誰もが地域の中で学び、暮らし、自分の人生を選び取っていきける社会に近づくために、日本で何ができるのか。今回の学習会は、そのことを考える大きなヒントをくれる時間だった。（文責：ナビ東 佳実）

すぎしまゆうき 木 かく 杵島優希 ゲームセンター企画

5月14日(木)にメンバーを誘って天王寺にある、あべのHoopのカプコンのゲーセンに行きました。

僕は行ったことがなかったので、鈴木兄弟と青木君を誘って行きました。

HoopのカプコンはバイオハザードやストリートファイターなどはVRゴーグルを使ってやりました。

僕はVRゴーグルを使うのが初めてだったので、新鮮でとても興奮しました。

でも、技を出す時はちょっと難しかったです、貴重な良い経験が出来ました。

他のメンバーは、いろいろな様々なUFOキャッチャーをして楽しみました。

僕は、中でもケロロ軍曹のクルルのUFOキャッチャーをどうしても取りたくて興奮しましたが、残念ながらとれず。それがちょっと心残りです。(笑)

僕はあまりメンバーを誘わないタイプだったけど、これからもどんどん誘いたいと思います！！

青木さんの感想です。

UFOキャッチャー200円で取れたのが奇跡です。楽しかった。(写真左下)

鈴木九聖さん(兄)の感想です。

めっちゃ楽しかった！笑 いろいろ見て回ったりゲームしたりしてたら、時間が過ぎるのが早かったです。



～2026年度アクセス関西ネットワーク総会・学習会～
しょうがいしゃうんどう じんけん
障害者運動なくして人権なし

みなさん、こんにちは。自立生活センター・ナビの山下です。6月29日（月）2026年度アクセス関西ネットワーク総会・学習会が開催されました。2026年度から事務局体制が変わり、新しいアクセス関西ネットワークがスタートしました。運営委員は近畿各地から参加しており、NPO法人ちゅうぶは、渡海、山下に加え、杉原に新しく運営委員になってもらいました。後半の学習会ではD P I 日本会議事務局 長の佐藤 聡さんを講師にお招きして『当事者参画』をテーマに講演していただきました。今年4月にオープンした愛知県にあるパロマ瑞穂スタジアム建設にあたって、当事者の意見を取り入れられて良かったという話でした。講演で使われていた資料をいくつか紹介します。

主な設備

- ・車いす席 303席
- ・バリアフリースイート 30ヶ所
- ・エレベーター 8基
- ・ヒアリンググループ席 200席

①パロマ瑞穂スタジアム（名古屋）2026年4月 入口は3階。アプローチは階段の他にスロープとエレベーターあり



正面入口の バリアフ リールート （2階）

3階の入口までスロープを2つ登るが、途中の2階では、階段の歩行者と導線がクロスしないように、バリアフリールートは階段の下を通るようにになっている

正面入口のスロープ 傾斜は非常に緩く、幅も確保されている



正面のエレベーター

大型のエレベーターで袖無しタイプで乗降しやすい



案内サイン

各階にバリアフリースイートがいくつあるか表示されており、わかりやすい



売店

車いすユーザーにあわせてカウンターが低くなっている



ドリンクホルダーは真ん中にあるが、
じゃまにならないように位置を低くしている



点字ブロックも敷設



バリアフリースイレ

ユニバーサルベッドも一部あり



【佐藤さんの熱いメッセージ】

【運動なくして人権なし】僕は、2年前にソウルと釜山に行ってきました。昔は、韓国の地下鉄はバリアフリーではなかったんです。でも、今は、すごく良くなっていて日本は負けたな。と思いました。あっという間に追い越していききましたね。とはいえ日本も進んできています。鉄道がどうしてこんなにバリアフリーになったかという、僕らの先輩の障害者がめっちゃめっちゃ運動してくれたからです。2000年にバリアフリー法ができてから、2014年に障害者権利条約に日本が批准をしました。2016年には障害者差別解消法施行され、2年前から民間事業者も合理的配慮が義務化されました。国内の法律どんどん良くなってきています。運動しないと世の中は良くなならないので、ぜひみなさん地元で新しい建物とか新しいものが出来る時には行政に働きかけたりとか、タクシーや電車などいろいろ利用して普段からバリアフリー活動をして問題があれば訴えかけるようにしてほしいと思います。みなさんが運動をすればするほど良くなります。これからも障害者運動を続けてください。

~~~~~

## ◆アクセス関西ネットワークとは

公共交通機関や、まちづくりのバリアフリー化を目的として、2012年に設立しました。関西地区で活動する障害者団体および個人が賛同団体・賛同人となり、関西各地の課題を共有し、意見交換・共同取組を行っています。具体的な活動内容をご紹介しますと、春の総会、10月の集会、冬の近畿運輸局との意見交換（移動円滑化評価会議の枠組みで実施）、また、それらを運営する適宜会議となります。

# がっこうこうりゅう や た ひがししょう さんか 学校交流 矢田東小フェスに参加しました！



6月12日(金)、生活介護の赤おに・青おに  
で、大阪市立矢田東小学校の「矢田東小フェス」に参加しました。矢田東小フェスは、  
各クラスが教室ごとにゲームやクイズなどの出し物を行う文化祭のようなイベントです。赤おに・青おにには、毎年呼んでもらっています。今回の参加メンバーは、中村、渡海、山下、眞野、西川、杉原の6名です。前半と後半で、ブースにいる人と各教室を回る人を交代しながらイベントを楽しみました。

前半のブースでは、山下さんが受付、渡海さん・杉原がクイズを担当しました。

渡海さんのクイズでは、子ども達に自分の名前を書いてもらい、言語障害のある渡海さんがランダムに読み上げ、誰の名前を言ったのか当ててもらいました。

“名前聞き取りクイズでは、名前の読みが難しかったです。子ども達と会話ができて良かったです。ワクワクドキドキしてくれる事が大事だと思いました。”



杉原は電動車いすについてと自分が困っていることのクイズを出題しました。正解を発表する際にその機能がなぜ必要なのかを説明しました。

“車いすクイズで座面昇降やリクライニングを見せたら驚いていました。三択問題で「冷蔵庫が付いている」というのを入ってたのですが、それはさすがについてないと、すぐにばれました(笑)これを機に車いすや障害者のことを知ってもらえたらうれしいです。”



山下さんは、受付をしながら、待ちが行列が出ているときは子ども達に、脳性麻痺について説明しました。

“久々に子ども達と話して触れ合うことが出来て良かったです。各クラスゲームやクイズを考え、協力して元気に出店して、こちらも元気をもらえました。”



後半のブースでは、眞野さんが受付、中村さん・西川さんがゲーム・クイズを担当しました。

西川さんは、子ども達に動物カードを選んでもらい、その動物の特徴をジェスチャーで伝えてもらい、何の動物かを答えるゲームをしました。西川さんが答える場面では、言語障害を聞き取ってもらいました。さらに、簡単な手話も学んでももらいました。

中村さんは歌クイズを行いました。歌クイズでは、言語障害のある中村さんが歌を歌い、その曲名を当ててもらいました。

#### <中村さんの感想>

“お店回りは僕が来たら、配慮とかしてくれました。何処にあるでしょゲームは全問正解だったので、自分でも怖いと思いました。(笑) どれも楽しかったです!”

“歌クイズは、「サカナクション」と「チョコプラ」の歌はスグ分かってくれました。「SEKAI NO OWARI」は分からなかったです。今度は矢田東小の校歌とか入れたらおもしろいと思いました。(音源は無いけど(泣)) 去年みたいな流行り(ミャクミャクみたいな)の被り物とかしたいと思いました。”

眞野さんは受付しながら、待ち行列が出たときは、交流を楽しみました。

#### <眞野さんの感想>

“俺は受付。ゲームの説明をし、俺の机から子ども達がゲームで使うカードを取っていく。カードとは動物が描かれたカードである。カードを取ったときの反応は様々で、余裕を見せる子もいれば悩む様子もみられた。俺はそれをみてニヤリとした。俺としては、してやったりであった。”

“子ども達が机をどけて入りやすくしてくれたりしました。今の気持ちをもったまま大人になってほしいと思う。後日プライベートで居る時に、矢田東小の子ども達が声をかけてくれた。また来年も参加したい。”

子ども達との交流を通して、障害の有無に関係なく、みんなで楽しい時間を過ごすことができました。今後もこのような機会を大切にしながら、学校交流の活動を続けていきたいと思いました。

(文責: 赤おに杉原)





じり つせいかつ  
自立生活センター・ナビ  
からのお知らせ

## 便利なアプリを利用して 災害に備えよう！！

じしん たいふう ごうさいがい にほんぜんこく あちこちでひんぱんお 災害は日本全国、あちこちで頻繁に起きていますね。大阪市には「大阪防災アプリ」というものがあります。避難情報、鉄道運行情報、台風・地震情報、熱中症情報など様々な情報を 知ることができたり、クイズもあり楽しく防災のことが学べるアプリになっています。

もしもの為に、今始めよう

# 大阪防災アプリ

osaka bousai

ダウンロードして  
大阪市  
を選択

大阪市 府市町村  
簡単に切り替え

受け取りたい市町村の  
プッシュ通知を  
受け取れる

ますます便利でー

切り替え可能

Home 防災マップ お知らせ

Osaka City  
Disaster Prevention app

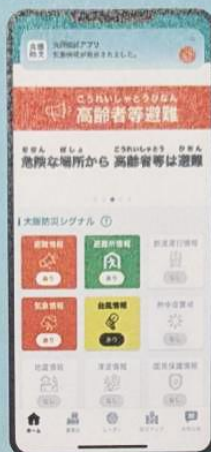
みなさんも、いざという時のためにぜひダウンロードして、ご活用ください。

# 使ってみよう！ 大阪市防災アプリ



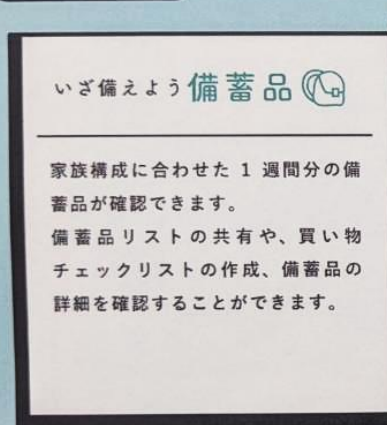
## わかりやすくお知らせ 防災シグナル

避難所情報・避難所開設情報・気象情報・台風情報・国民保護情報・地震情報・津波情報が発令されると、色の変化とトップ画面でお知らせします。  
トップ画面は危険度によって色が変化します。



## 迫る危険をお知らせ プッシュ通知

大阪市からののお知らせや防災情報をアプリからプッシュ通知でお知らせします。  
受け取る通知は設定することができます。



## いざ備えよう 備蓄品

家族構成に合わせた1週間分の備蓄品が確認できます。  
備蓄品リストの共有や、買い物チェックリストの作成、備蓄品の詳細を確認することができます。



## 日ごろから使える 雨雲レーダー

気象庁の雨量情報および、台風情報をリアルタイムで表示します。  
60分前から15時間先までの未来の降水分布予測を、連続的に表示して閲覧することができます。



## 日頃から確認しよう 防災マップ

大雨等による浸水想定区域等のハザードマップ、開設している避難所一覧、避難所までのルートなどを確認できます。  
また、新たに緊急一時避難施設を確認できるマップが追加されました。



## みんなが使いやすい 多言語対応

多くの人にご利用頂けるよう「日本語」「やさしい日本語」「英語」「中国語（簡体語・繁体語）」「韓国語」に対応しております。



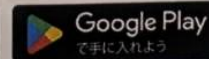
お問い合わせ先

大阪市危機管理室

TEL : 06-6208-7388

FAX : 06-6202-3776

大阪防災アプリ



ぶんせき じりつせいかつ やました  
文責：自立生活センター・ナビ 山下

# しんじんしょくいん 二宮菜奈さんインタビュー ばんがいへん 新人職員 二宮菜奈さんインタビュー 番外編

ぜんかい ひきつづき、2025年4月に入職された二宮菜奈さん(すてっぷ所属)に、青おに島袋がインタビューした様子をお届けします。今回は、前職(入所施設の生活支援員として2年勤務)のお仕事について中心に伺いました。

## しせつ はたら かた 施設での働き方

二宮)前の職場は“施設”という感じで、早出、日勤、遅出、夜勤の勤務形態でした。

7時になったら入居者を起こして、食事の準備、8時に朝食、日中にお風呂介助、洗濯、服の片付け、などの生活支援の仕事をしていました。

1人のスタッフが8人の入居者を見ていました。(異性介護もありました。)

やる事がたくさんあって、1人ひとりとのコミュニケーションは少なかったです。

## ちゅうぶとのギャップ

二宮)入居者の方も変化のない生活だし、職員も毎日同じことの繰り返しで刺激がない。長年働いている人はそれがあたりまえで、入居者のためにになにかしようというアクションもなかったと思います。

もともとちゅうぶを知っていたので、そこのギャップも大きかったです。どちらがいい悪いというわけではないけど、働いてみることで違いがよくわかりました。

## じどうはんばいき ゆいいつ か もの 自動販売機が唯一の買い物

二宮)山の中というのもあり外とのつながりがないので、閉鎖的な環境だったなと思います。もうコロナは落ち着いていたけど、外出は制限されていました。地域のスーパーや映画に行くなどはなかったです。月に1回、施設内の自動販売機が唯一の買い物でした。

外出したい人はガイドヘルパーに頼むという感じです。

病院も敷地内にあるので、すべてその中で完結します。

働いていた2年間で、入居者の方と外出する経験はなかったです。みなさん知的障害の方なので、自分の思いを言葉で伝えるのも難しく、こちらの与える選択肢のなかで生活するしかないという感じでした。



島袋)私も施設で暮らしていたので、気持ちはわかります。それに疑問を持たない人もいるのかもしれないです。

一概には言えませんが、私個人の考えとしては、目的があって短期的に施設を使うのはいいい使い方なのかなとも思いますが、何十年も閉鎖的な生活はしんどいですね。

二宮)働いている人も現状に疑問を持たない人が多かったです。

この人にはこの生活が合っていると思い込んでしまっているのかもしれないです。

## ちいきせいかつ えいが 地域生活をテーマにした映画

しまぶくろ あいだ えいが  
島袋)この間、映画「つばさをひろげて」を観ましたが、施設で働く方にもこの映画を観てもらいたいです。

にのみや し  
二宮)知ってほしいですね。山の中に施設があることも問題だと思います。町の中にもってくるべきだと思います。ちゅうぶでは、地域のひとと繋がりが作りながら生活している人がいるのでそれをどんどんアピールしていきたいです。自立障害者のリアルな生活の密着映像を撮ってみたいです。

しまぶくろ むちゅう  
島袋)夢宙センターの映画「インディペンデントリビング」もそうですね。

にのみや  
二宮)まだ観たことないので観てみたいです。

## ひと り ひと ふかほり 1人の人を深堀りしたい

にのみや かいご はい  
二宮)介護に入ると、その人が昔一人旅をしたり、海外旅行に行った話を聞くので、もっと深く聞いてみたいし、取材してみたいです。

しまぶくろ みつちやくえいぞう  
島袋)密着映像ができれば、ヘルパー募集のための学生へのアピールにも使えそうですね。

にのみや  
二宮)ちゅうぶのことも知ってもらえそうですね。

## えいが ～映画のご紹介～

### 『つばさをひろげて』

きょうどうこうしょうがい  
強度行動障害がある人が重度訪問介護の制度を使って一人暮らしを始めた道のりを追ったドキュメンタリー映画。東大阪市の社会福祉法人創思苑のパンジーメディア製作。



### 『インディペンデントリビング』

ものがたり ぶたい おおさか  
物語の舞台は大阪にある自立生活センター。先天的なものだけでなく、病気や事故などにより様々な障害を抱えながら、家族の元や施設ではなく、自立生活を希望する人たち。家族との衝突、介助者とのコミュニケーションなど課題も多く、時に失敗することもある。しかし、自ら決断し、行動することで彼らはさきやかに、確実に変化をしていく――。

ぶんぶんフィルムズ製作のドキュメンタリー映画。



# ニフレルに行ったよ！ 2026年5月14日(木)

私が企画したニフレル外出に赤おにメンバーの「きりたんぽさん」(後藤さん)を誘って行ってきました。ニフレルに着いて、天気が良かったので外できりたんぽさんはお昼ご飯を食べていました。私は胃ろうから水分を注入しました。

少し休憩した後、いざ、念願のニフレルへ！



## 【1階フロア】

入り口はいつてすぐにまず小さい魚🐟が沢山いました。私が気になる魚を見つけると、そのモノマネをして、きりたんぽさんに教えました！奥に進むと、まだ見たことない魚がいたのでまたモノマネをして楽しみました。



こちらに向かってパタパタと泳いできた魚を見て、私も両手を広げパタパタと真似をしたりヒレが広がった三角形の魚を見てカタチを真似したりと、さらにあと3回ぐらいのモノマネをしたので、「ほらほらこ」(佐々木さん)にクスッと笑われていました。見たことのあるニモの魚(カクレクマノミ)や少し変わった斑点模様のカニもいた。ニモのコーナーを見た後、暗いところに住む魚のコーナーもありました。



岸原さんと初めての外出、本当に楽しかったです。水族館と聞いていたのに本当に色んな動物がいてビックリしました。なかでもホワイトタイガーは迫力がすごく、怖かったです。他にも熱帯魚やくらげもとてもきれいでした。私が大好きなペンギンも、ものすごくかわいかったし…何より、岸原さんと行けて嬉しかったです。また、一緒になにかできたらなと思います。

後藤 寛子(きりたんぼさん)

## 【2階フロア】

カメレオンなどの熱帯に住む動物のコーナーだった。そこでも私はモノマネをした！きりたんぼさんとプラちゃん(齊城さん)は笑っていた。さらに奥に行くと、左側はワニなどの水辺の生き物がいた。右側には孔雀がいた。



カピバラもいた！ペンギンもいた！上を見たらホワイトタイガーがいた！キャットウォークに柵を付けたようなタイガーウォークを歩くホワイトタイガーはまるでモデルみたいな動きをしていた。初めて見るホワイトタイガーは想像以上に大きかった！！止まった時がシャッターチャンスでした。楽しかった！



最後にそれぞれお土産を買いました。また他の人も誘っていきななとおもいました。

岸原 しほ(ピザパイむすめ)

# きとみちおへや 木戸通雄の部屋

ひこはち  
～彦八まつり～



木戸通雄の部屋



令和8年5月16日(土)晴天、生国魂神社(いくたまさん)、まだ午前中だと言うのに初夏の日差しが厳しく暑い。こんな歌があったような、『♪缶のビール飲み干すにも♪陽射しが眩しい♪ウィンクだけ～♪遠～くばかり～を見ている～♪』去年NHK紅白歌合戦を引退された郷ひろみさんの昭和53年(たしか夏)にヒットした曲(バイブレーション)。本当はこの歌を思い出した時に店で缶ビールでもグイッと飲みたかったけど、ヘルパー立石さんに相談してやめた。

この日、落語家さんの出店でフランクフルト1本300円だけ買いました。さあ木戸と一緒に『彦八まつり』を楽しみましょうっ!! 出発進行! まずは本殿で参拝、木戸通雄63歳になっても結婚祈願。「良い人と出会えますように……。」ご利益があったのか? 出逢いの相手はナント小坪君!? 偶然ばったり逢いました。



この日、目玉のイベントは午後から野外特設ステージに、月亭方正さんと桂文枝師匠、NMB48の安部さん、夕方から間寛平さんが来る予定になっていたが、待っているには日差しが厳しく、介護者の立石さんと残りの移動支援の時間数も踏まえて相談し、日本たばこ(JT)の電子タバコの試飲会場に行った。そこでは無料でコーヒーを淹れてくれた。電子タバコの初試し吸い。今まで木戸は巻きタバコで一服をおけたが、電子タバコは、慣れてなくて一気にちょっと吸っただけで『ゴホッゴホッ!!』と息詰まりむせた。63歳の初体験。木戸が本格的にタバコを吸い始めたのは、20代後半から30代だった。

もっと昔の若い頃、木戸はお笑い芸人に憧れた時期があった。といっても落語家ではなく、漫才師だった。木戸が10代の頃、『マンザイブーム』真っ盛り!! 木戸が17歳だったか、近所のジャスコ東住吉店に民放ラジオ局の『青芝フック&キック』司会の番組の公開録音があった。木戸は松田聖子の(青い珊瑚礁)を歌った。その時、松竹芸能の青芝フックさんに『弟子入りさせて下さい。』と頭を下げて頼むが、今考えれば木戸には愛想が無かったせいかな『まだ、若すぎる。』と返事を保留された。これが1回目。

もっと昔の若い頃、木戸はお笑い芸人に憧れた時期があった。といっても落語家ではなく、漫才師だった。木戸が10代の頃、『マンザイブーム』真っ盛り!! 木戸が17歳だったか、近所のジャスコ東住吉店に民放ラジオ局の『青芝フック&キック』司会の番組の公開録音があった。木戸は松田聖子の(青い珊瑚礁)を歌った。その時、松竹芸能の青芝フックさんに『弟子入りさせて下さい。』と頭を下げて頼むが、今考えれば木戸には愛想が無かったせいかな『まだ、若すぎる。』と返事を保留された。これが1回目。





2 回目は、木戸がまだ 18 歳、なんば花月が、新しくなんばグランド花月に改築されるもっとも昔。お母さんとお姉さんと劇場の外で、母が座長の間寛平兄さんに『この子、吉本に入れてやってよおっ！？』その時、間寛平兄さんは冷たくも厳しく判断され、かえってきた答えは『顔がきれいやから俳優になったほうがええ。』この昭和の時代を生き抜いた木戸は世間のこともまだ知らず、世の中は簡単に行かないことを、身をもって目に見えない神様に教えられた。

お笑い芸人をいったん諦めた木戸は、工芸高校(4年制定時制)を卒業間近に、東住吉区矢田にある大阪芸術大短大(通信制)に進学したいと家族に相談した。でも父に反対された。いったん社会に出て鉄板会社に就職。考えるようにいかず親に隠れて大阪城自衛隊本部で自衛隊の試験を受け、陸海空のうち陸上自衛隊を選んだ。



話は変わるが今年6月ガッツポーズの生みの親ボクシング界のガッツ石松さんが76歳で亡くなった。石松さんは試合に勝った時、必ずと言っていいほど両手でグーを見せガッツポーズを飾った。彦八まつりでは笑福亭喬明ちゃんと二人っきりでガッツポーズ。

話はまた変わるが、6月16日(火)セパ 12球団で埼玉西武ライオンズが交流戦初優勝！！6月17日(水)時点セリーグ巨人1位、パリーグ西武1位。

7月上旬から今年も全国高等学校野球選手権大会の予選が各地で行われる。はたして天理高校は奈良代表として今年も8月の甲子園に帰ってくるのだろうか？神奈川の強豪、横浜高校は？木戸のお父さんの実家のある、敦賀気比高校は？木戸が一番気になっているのは大阪の代表校、いったいどこに？はたしてセンバツ優勝校の大阪桐蔭高校は？深紅の大優勝旗は果たしてどこの学校に行くのだろうか？

今年の6月は朝夕寒暖の差が激しいが、7月8月はもっともアツくなるんだろうなあ。それから外を歩く時はペットボトルに水分を持ち日陰を歩きましょう。そして熱中症予防には毎日風呂に入るようにしましょう。夜寝る時もエアコンを入れるようにしましょう。子どもは水遊びをして走り回る季節。

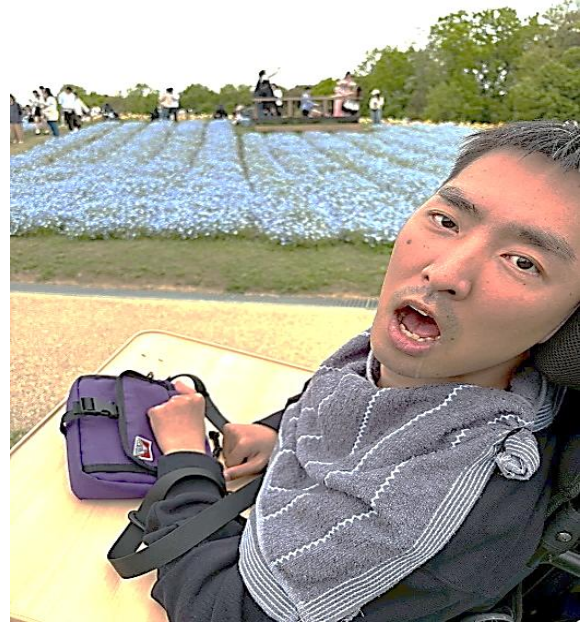
7月31日(金)は待ちに待った須磨海水浴場おおっ！！ (文責：木戸)



# マノスタグラム～フルカーペット～

4/19(日)吹田にある万博記念公園へ行ってきました。

地下鉄からモノレールに乗り継ぎ、この日の目当ては「花の丘」ネモフィラ、小さな青い花が一面に咲き、他にもカリフォルニアポピーなどの花も咲いていてとても綺麗でした。



ちなみに万博記念公園ですが、ネモフィラが見れる「花の丘」で行こうとすると坂道や悪路を通らないといけなかったので、電動だと問題なさそうですが手動だと少し向いてないかなと感じました。。

EXPOシティから公園までもかなり歩いたのでトータルで気合と根性が要る外出でした。

昼食はエキスポシティ内フードコートの会津屋で「たこ焼き定食」を食べました。

ボリュームもちょうどいい感じで、おいしかったです。

今回の外出は坂道が多かったり、たくさん歩きましたが、天気も良くネモフィラ以外にもたくさんの花が見れたのでよかったです。



きょうりよく か い ひ

きょうりよくしゃめ い ぼ

# 協力会費・カンパ協力者名簿

|                         |                   |                       |                    |
|-------------------------|-------------------|-----------------------|--------------------|
| さ の よ し み つ<br>佐野 欣満 さん | とう きょう と<br>(東京都) | いのうえ まさたか<br>井上 正隆 さん | ひがしよどがわく<br>(東淀川区) |
| もりた せい こ<br>森田 勢子 さん    | ひ め じ し<br>(姫路市)  |                       |                    |

がつ にちげんざい  
6月30日現在

きょうりよく  
ご協力ありがとうございました(担当:安東)

「夏だ!!、食中毒に注意!! 一番足が早いのは誰かレース」



- もやし「もやしっことは言わせない、皆、負けても腐るなよ」
- 刺身「コーナーで刺すつもりだったが直線でもぶっちぎりさ」
- 味噌「具にはちゃんと火を通すのがミソさ」
- 卵「おまえ、まだ玉子だろ、とは言わせない」
- サラダ「まだまだ青いとは言わせない」
- カップヌードル「ボクは保存食にもなるよ。」



赤おにくん:

「短冊に何て書いたの?」

青おにくん:

「赤おにくんが村人と仲良くなれますように、って書いたよ。キミは?」

赤おにくん:

「短冊に何て書いたらいいかわからないから、それを A I に聞いてるとこ」

青おにくん:

「その願い、叶えてあげた方がいいのかどうかお星様も迷うだろうね」

| 2026年7月～9月 スケジュール |   |                                                                                                          |
|-------------------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月21日             | 火 | 障大連対大阪府交渉に向けた学習会13時半～16時半 @都島区民センター                                                                      |
| 7月22日             | 水 | さがみはらつく い えんじけん なんついでしうしうかいアゴ ころしん じ さん きんいんかいん どうきようえき<br>相模原津久井やまゆり園事件10年追悼集会 & デモ行進12時～17時 @参議院会館～東京駅 |
| 7月31日             | 金 | ちゅうぶ通所 海レク @須磨海浜公園                                                                                       |
| 8月28日             | 金 | ～30日(日)日本福祉のまちづくり学会全国大会 @近畿大学                                                                            |
| 9月1日              | 火 | ～3日(木)ちゅうぶ量度訪問介護講座 @四天王寺大学(羽曳野市)                                                                         |

●先日、関定協総会がありました。関西定期刊行物協会。この通信も関定協を通じ、心身障害者第3種郵便という通常のよりかなり安く郵送できる仕組みを使っています。40年前からのこの制度のおかげで多くの団体が全国に情報発信を続けてきました。2009年には悪徳企業がこの制度を使って広告物を大量に送って儲けるという今の絆ホールディングにも通じる事件がありましたが、なんとか危機を乗り越えています。SNS全盛でAIの時代ですが、逆に紙媒体も重要さを感じています。ワールドカップでは小国が活躍、人口60万人の島国カーボベルデ、東住吉区と人口規模大差ないキュラソーなど。でもチケット代高すぎ！（いしだ）

●昨年末に石川県は能登半島の輪島市に2泊3日で旅行に行きました。きっかけは同春秋にあったとあるアパレル企業が主催する大型音楽フェスで、能登の復興の応援が大きく掲げられていた。自分自身、能登の復興状況には関心を持っていなかったわけでもなく、せっかくだということでもたまたま購入したコーヒー豆。販売者には「社会福祉法人佛子園」という名前が。いち福祉法人がこのような音楽フェスで関わっていることに驚き、年末の旅行先に能登半島を選択。宿の予約について、廃業していた宿はもちろん、復興関係者を優先するなど宿探しに苦労。アクセスは大阪から能登里山空港の直通飛行機便がなく、金沢駅から高速バスを利用。現地の被害状況については特に輪島朝市通りのそこにあったであろう住民の営みがまっさらの空き地に変わっていたことに寂しさを覚えました。また、良い発見もあり、佛子園の運営する輪島カブーレやコミセンBASEでは福祉施設でありながら、温泉や食事処を地域住民に解放。入浴後にカブーレとオリジナルのクラフトビールを堪能し、クオリティの高さに感服した他、自分たちの隣では高齢者のデイサービス中という不思議な感じ。直近では佛子園内で児童虐待が起きたという残念な報道もあったが、佛子園の取り組み自体は素晴らしい、今後も動向は注目していきたいです。また、自分たちも内に留まらず、今後も社会との繋がりを意識していきたいです。（うえだ）

●話題はやっぱり、サッカー ワールドカップですね、今大会のスウェーデン戦は介護中でしたが、それ以外の日本が初めて出場した1998年のフランス大会以降の全ての日本試合をライブタイムで観戦してきました。2002年6月14日、たまたま僕は、駒川商店街近くにいたのですが、ずらっと沿道に人が並んでいるので何だろうと思ったら、ちゅうぶのある東住吉区の長居スタジアムで、サッカーワールドカップの日本vsチュニジア戦で勝利した日本選手たちの乗ったバスが駒川インターに入る前に通り、沿道に並んでいる人たちとバスを拍手で見送った光景を思い出します。今大会の初戦のオランダ戦では、もう負けかと諦めかけましたが、最後の最後に追いつきました。「諦めたらそこで試合終了だよ」というスラムダンクの有名なセリフがよぎりましたね。今日のam2:00から観戦したブラジル戦はその逆になってしまい、まだ放心状態のままこれを書いています。では、現実社会で自分はどうかと考えると、たとえ負けでもやれるだけのことはやったと言えるように行動できているだろうか、いや、そんな強くない自分もいます。仕事でもチーム一丸で、役割分担をしゴールに向けてなんらかのアシストができればいいのですが、とりあえず、レッドカードをもらわないようには頑張りますね。（うえばやし）

【東住吉区障がい者基幹相談支援センター】  
【自立生活センター・ナビ】  
〒546-0042 東住吉区 西今川 2-3-8  
でんわ = 06 (6760) 2671  
ファックス = 06 (6760) 2672



【障害者活動センター 赤おに】  
〒546-0031 東住吉区 田辺 5-6-10  
でんわ = 06 (6623) 7300  
ファックス = 06 (6657) 5010

【グループホーム・リオ】  
〒546-0032 東住吉区 東田辺  
2-21-21  
でんわ&ファックス  
= 06 (6608) 5244  
【ヘルプセンター・すてっぷ】  
NPO法人ちゅうぶ 2階  
でんわ = 06 (4703) 3741  
ファックス = 06 (6628) 0271  
【障害者活動センター 青おに】  
NPO法人ちゅうぶ 1階  
でんわ = 06 (4703) 3742  
ファックス = 06 (4703) 3743

編集：特定非営利活動法人  
エヌピーオーちゅうぶ  
【NPO法人 ちゅうぶ】



〒546-0031  
おさかしひがしすみよしきたなべ  
大阪市東住吉区田辺5-5-20  
でんわ=06 (4703) 3740  
FAX=06 (6628) 0271  
ホームページ=https://npochubu.com/  
メールアドレス=chubu@npochubu.com  
郵便振込口座：00960-6-313427  
通信 定期購読料 = 1年間2,000円